

18: ドナー別(血縁・非血縁)・移植細胞ソース別(骨髄・末梢血・さい帯血)による移植成績

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 木村 文彦	防衛医科大学校病院	血液内科
吾郷 浩厚	島根県立中央病院	血液腫瘍科
熱田 由子	日本造血細胞移植データセンター	
今井 陽俊	札幌北榆病院	内科・血液内科
内田 直之	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
加藤 光次	九州大学病院	血液腫瘍心血管内科
加藤 俊一	東海大学医学部付属病院	小児科・細胞移植再生医療科
諫田 淳也	京都大学医学部附属病院	血液内科
神田 善伸	自治医科大学附属病院・附属さいたま医療センター	血液科
鋤塚 八千代	名古屋大学医学部附属病院	先端医療・臨床研究支援センター
小林 武	がん・感染症センター 都立駒込病院	血液内科
澤 正史	安城更生病院	血液・腫瘍内科
角南 一貴	独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター	血液内科
瀬尾 幸子	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院	血液腫瘍科
田中 正嗣	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	血液内科
谷口 修一	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液科
田淵 健	がん・感染症センター都立駒込病院	小児科
塚田 信弘	日本赤十字社医療センター	血液内科
寺倉 精太郎	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
永田 泰之	浜松医科大学	血液内科
西脇 聡史	名古屋大学医学部附属病院	先端医療・臨床研究支援センター
藤田 直人	広島赤十字・原爆病院	小児科
松野 良介	昭和大学藤が丘病院	小児科
松本 公一	国立成育医療研究センター	小児がんセンター
三田村 真	サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社	
三原 英嗣	愛知医科大学病院	血液内科
宮村 耕一	名古屋第一赤十字病院	血液内科
森島 聡子	琉球大学医学部附属病院	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)
森島 泰雄	愛知医科大学	造血細胞移植振興寄附講座/中部さい帯血バンク
薬師神 公和	神戸大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
渡邊 修大	名鉄病院	小児科
石山 謙	金沢大学附属病院	血液内科

長藤 宏司	久留米大学病院	血液・腫瘍内科
屋部 登志雄	日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター	検査部検査開発課
今橋 伸彦	The University of Texas MD Anderson Cancer Center	Stem Cell Transplantation & Cellular Therapy
南谷 泰仁	京都大学医学部	腫瘍生物学講座
後藤 守孝	東京医科大学病院	血液内科
小沼 貴晶	東京大学医科学研究所附属病院	造血細胞移植チーム
宮尾 康太郎	名古屋大学大学院医学系研究科	血液・腫瘍内科
栗田 尚樹	筑波大学附属病院	血液内科
稲本 賢弘	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
小林 真一	防衛医科大学校病院	血液内科
河村 浩二	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
小松 恒彦	帝京大学ちば総合医療センター	血液内科
水谷 元紀	愛知医科大学病院 内科学講座	血液内科
大屋敷 一馬	東京医科大学病院	血液内科
加藤 啓輔	茨城県立こども病院	小児専門診療部 小児血液腫瘍科
河野 健太郎	地域医療推進機構(JCHO) 九州病院	血液内科
平川 経晃	日本医科大学付属病院	血液内科
藤原 慎一郎	自治医科大学附属病院	無菌治療部/血液科
稲垣 二郎	北九州市立八幡病院	小児科
徳永 雅仁	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科

2. 会議開催記録(2017年1月-12月)

日時	場所	会議内容
2017/1/8	国立がん研究センター	ドナー年齢の影響を成人血縁者間、小児でも検討
2017/7/8	名古屋第一赤十字病院	Eurocord/EBMT との共同研究

3. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2017年12月末時点まで)

(503)回

4. WGの今後の活動方針・抱負など

①積極的に他のWGに共同研究を提案する ②海外との共同研究を積極的に進める ③移植ソースの適切な供給体制を整えるための解析等で提供機関との共同研究を進める という3つの行動目標のもとに活動をしています。2017年は①を進めることができませんでした。2018年は合併症WGとの共同研究を進めていきます。②については、CIBMTRのWorking CommitteeでInternational StudiesがHealth Servicesと一緒にになったため新規研究提案を通すのが困難になりました。さい帯血移植成績の比較についてEurocord/EBMTとの共同研究が進行中です。③については高齢ドナーをどのように捉えるかの研究で、非血縁骨髄での報告に続いて、血縁者での解析を進めています。今後も、疾患横断的に、特定の状況下でのドナー選択のクリニカルクエスチョンに回答が得られるような研究に取り組んでいきます。